

1. 挨拶 会則と現状を考える

コロナ第一波の影響で対面活動が停止され、代わりに会員の情報交換用に会報発行が始まったのが去年の夏。そこから1年経っても活動の中心が抜け落ちたまま今に至っている。コロナ感染の将来を見通せないまま早期の活動再開を楽観視していた。しかし今はもう第8波、ワクチン接種も5回目が始まるが、未だにインフルエンザのような治療薬が現れていない。この間に情報の伝達が対面+on line方式が主流になり、手段の選択肢の少ない我々の会では以前の活動が制限されたまま今年も過ぎようとしている。

会則に掲げた高い目標を実現して行くには実力不足が否めない。会則の見直しを考えるのでは無くいずれ近い将来我々の実力に見合った機会が来ると期待し、今はできる活動を模索しつつ充電期間と位置付けたい。

2. 10月・11月の事業内容と12月・1月の予定

状況 早いもので、もう12月です。新型コロナウイルスも再び拡大傾向に転じたため、本会で計画した本年度の事業も相談会、拡大相談会を中心に、研究施設訪問会を実施し、サロンもやっと計画できるような状況です。

① 事業の実施及び実施予定

定例会（相談会） 9月、10月は予定通り開催

9月 5日 8日 21日

10月 3日 6日 19日 21日

11月 7日 10日 25日

12月 5日（中止） 8日（5日のメンバーと合同開催）

1月 25日 27日

拡大相談会 10月29日（土） 10:30～ 上田公民館

会の運営方針について議論、

シニアの会サロン 10月29日（土） 13:00～ 上田公民館

での開催を予定していましたが、諸事情により2月18日（土）に延期

会報 8号発行（10月1日に発行） 9号発行（12月1日に発行）

10月 コウサポいわてへの活動報告書（中間）提出

11月 コウサポいわてへ事業中止報告書の提出

助成事業中止承認決定通知書が届く

来年度以降の補助金申請は行わない方向で事業計画を作成する

3. 会員紹介

今回の会員紹介はお休みします

4. コラム 『縄文時代に想いを馳せて』

「縄文遺跡」は日本各地に存在していて、各地で発掘調査が現在でもおこなわれている。では、縄文時代とは漠然としたイメージで、旧石器時代と弥生時代の間程度のイメージしか持ち合わせていなかった。縄文時代は今から15000年前（紀元前13000年）に始まって、2400年前（紀元前400年）まで、約1万年も続いた時代であった。そして大き



【三内丸山遺跡 公式HPから引用】

く草創期、早期前期、中期、後期、晩期の6つに分けられている。その時の気候は比較的温暖な気候が続いていて、晩期に冷涼な気候になり、その時代の終焉を迎えることになった。そして今縄文時代が再び脚光を浴びることになった。昨年（2021年）7月に「北海道・北東北縄文遺跡群」がユネスコの世界遺産に登録されたのだ。白神山地、平泉（仏国土（浄土）を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群）、釜石（明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業）に次ぐ4番目の登録となった。岩手ではこのうち実に3つの世界遺産誕生という事になった。めでたいことである。この「北海道・北東北縄文遺跡群」は、採取・漁労・狩猟を基盤とした定住を1万年以上の長期間継続した世界的にも稀有な資産であり、たぐいまれなる精神性を含む生活の在り方、及び自然環境の変動に応じて変容させた集落の立地と構造を示す17の遺跡群に、農耕以前の人類の生き方を理解するうえで貴重であるとして、2021



【遮光器土偶】

年7月27日に世界遺産に登録された。この縄文遺跡群には北海道で6か所、青森県で8か所、秋田県で2か所、岩手県で1か所が指定されている。その代表的な遺産は青森県の三内丸山遺跡であろう。高さ14.7mの大型堀立柱建物には目を見張るものがある。また、縄文時代の遺物としては、なんとといっても国宝に指定されている遮光器土偶であろう。この遮光器土偶は青森県つがる市の「亀ヶ岡石器時代遺跡」で発見されたものである。遮光とつけられたのは、目の形がエスキモーであるイヌイットの人達が、光の雪での反射を抑えるための遮光器に似ているからとされる。この土偶はその形から宇宙人だという説もあるようだ。縄文時代と言われるゆえんは 明治初期に行われた3000年前の遺跡である、東京大森貝塚の発掘調査にはじまる、このときの研究者であるアメリカ人の考古学者エドワード・モースらが発掘した土器類に縄目の模様があることから、縄文土器と名付けた、その後日本各地で縄文土器が発見されたことから、この縄文土器の作られた時代を縄文時代というよう

になった。しかし縄文時代草創期（旧石器時代から縄文時代に変って直ぐの頃）の遺跡である青森県の太平元山遺跡から出土した土器類には、この網目の文様がなく、「無文土器」とよばれている。この太平元山遺跡は日本最古の縄文遺跡とされているようだ。この当時世界各地では中国、メソポタミア、インダス、エジプト等の古代文明が栄えていて、それらに共通するものは農耕（小麦等の栽培）で、農耕によって多くの人を定住させることできたとされている。しかし、当時日本で発掘された縄文遺跡の規模はどれも比較的小さいもので、縄文人は少人数規模で狩りをしながら移動生活を送っていたというイメージが作られたようだ。そしてこのイメージを覆すような大発見が起きてしまった。青森県の野球場の建設工事中に大規模な貝塚が出て、その調査をしたところ、大規模な居住地の遺跡と確認されたのが、三内丸山遺跡である。実に東京ドーム9個分以上もあり、現在でも発掘調査が継続されているようだ。実は縄文人は石器で狩りをし、土器を作って煮炊きをすることで、定住を始めた人たちであるというのが現在の定説となっている。この発見により色々なことが分かってきた。まずは何といても自然との共生であろう。縄文人は自らブナやドングリの林を切り開いてクリの木を植えてそのクリ林を管理していたようである。農耕では無いが、クリの植樹等を行って、その恵みを共有していたようだ。三内丸山遺跡にそびえ立つ巨大な建造物は、巨大なクリの木の柱6本から構成されていた。何のための建造物



【御所野縄文博物館】

なのかはよくわかっていないが、祭礼等の儀式などを行っていたのかもしれない。さらに貝塚からは様々な骨が出土して当時の食文化のゆたかさを示していた。イノシシやシカなどの動物の骨、クジラ、アザラシ、マグロ、カツオ、ヒラメやタイなどの海の幸、さらには多種多様な貝類や、木の実や山菜など現在に負けず劣らずの食材の宝庫だったと推定される。また貝塚は単なる廃棄物処分場ではなく、再びよみがえるための感謝や祈りの場でもあったようだ。では、縄文人たちはこのような豊かな食材をどのようにして食していたのだろうか？実は調味料としての塩が確立したのは約3000年前からという事が分かっている。従ってそれ以前の縄文人は塩味をつけて食べていた訳ではない。最初はただの素焼きや水煮だったのであろう。それに木の実を粉状にしてまぶして食べたり、あるいは獣肉や魚肉を焼いて一緒に鍋に入れてダシを取ったりと進化していった事が推測される。さらに驚くべきことは、縄文人が使っていたヤジリやオノ等の石器類についてである。これらはすべて小型で、魚や動物を狩るためのものや、木などを伐採するもので、武器として使えるようなものでないという事である。すなわち当時は人間同士の闘争等は無かったようだ。だから1万年も続いたのであろう。弥生時代になり稲作が持ちこまれてから、その収穫量に格差ができて貧富の差が生まれて、人間同士の争いが起きたことは容易に考えられることである。さらに驚いたのは、病気になった成人の骨の出土である。どう考えても成人になるためには介護が必要であり、「ムラ」全体で支え合ったことが推察されるとの事だ。そ

して人間の墓地と思われるところからの完全な犬の骨の出土である。縄文時代から犬は人間のそばにいたことになる。狩猟犬として飼っていたことは容易に想像できるが、もしかするとペットとして飼っていたのかもしれない。今の世の中では「気候変動問題」や「SDGs（持続可能な開発目標）」等と色々と言われているが、なかなかまとまらない現実がある。縄文時代はまさに「自然環境との調和」、「社会福祉の充実」、「平和社会の実践」など、我々現代人が学ぶべき点が多々あるようにも思うのは筆者だけであろうか？最後に縄文人が確立した技術は、現代でも脈々と息づいている事だ。まずは狩りに使った石のヤジリや石斧、煮炊きに使った土器類、骨で作った釣り針、植物を編んで作った衣類、そして漆器の技術などである。縄文人が最初にその技術を見出さなかったら、どうなっていたらろうか？特に漆による漆器の技術は当初土器や土偶の装飾用から始まり、次第に漆器などの実用品に発展していったと考えられる。漆の技を最初に見つけたのはどのような経緯か、大変興味をそそる事である。それらを考えると、まずは縄文人に感謝である。筆者も小学生の頃、近所の畑でヤジリなどを拾って遊んだことをふと思い出した。実は縄文遺跡は岩手にも各地に存在している。盛岡にもあるようだ。しかしいずれも小規模であり、「ムラ」を形成するような規模の遺跡は数少ない。この数少ない大規模な遺跡として、一戸町にある御所野遺跡（ごしょのいせき）が世界遺産に登録された。この縄文時代を体感できる御所野遺跡に皆さんも、是非一度訪ねてみて、縄文時代に想いを馳せてみませんか？

5. 新たな会員の募集について

新規会員の紹介をお願い致します。会員増は会員の皆様の人脈だよりです。

本会報を使っても構いませんので、お知り合いの方へのお声かけお願いいたします。

連絡先 事務局 志田満

携帯 090-2791-1803 e-mail mitshida.1029@docomonet.jp

6. 編集後記 白鳥がまたやってきた

10月31日の午後、ふと遠くで「クーッ！クーッ！」という鳴き声が遠くで聞こえた。そういえばTVのニュースでも白鳥の飛来があったと言っていたような。「またきたよ！」と言っているような鳴き声であった。どうやら我が家の上空が白鳥の飛行ルートになっているようで、毎年この時期になると近くを飛行していることを確認できる。早いもので、もうそんな時期だと感じた次第である。花巻の三郎堤では、すでにその優雅な姿を元気に見せていた。来年の3月までは目の保養をさせてくれるだろう。（志田）